

学術大会開催報告

第19回学術大会開催報告

2017年11月1日～2日
於曹洞宗檀信徒会館3・4階

第19回学術大会が、2017年11月1日～2日の日程で、曹洞宗檀信徒会館（東京グランドホテル）にて開催されました。

大会は3会場にて行われ、シンポジウムが3件、リレー発表が2件、45の個人発表が行われました。連日、多くの聴講者があり、盛会裏に閉幕しました。

大会初日は、午前9時30分より「桜の間」にて開会式が行われました。本尊上供、宗歌斉唱に引き続いて、釜田隆文宗務総長・大谷哲夫総合研究センター所長が挨拶をなされました。

引き続き、午前10時から、「桜の間」にて、梅花流詠讃歌研究プロジェクトシンポジウム「赤松月船師と梅花流詠讃歌」が開催されました。本シンポジウムでは梅花流草創期にご活躍された、赤松月船師について ①「赤松月船師仏教関係著作目録について」梅花流詠讃歌研究プロジェクト員

②「曹洞宗近代布教における赤松月船師の意義」委託研究員 佐藤俊晃 ③「赤松月船師 —その人と文学—」倉敷市立短期大学元教授 定金恒次 ④「近代宗教史のなかの梅花流詠讃歌」上智大学グリーンケア研究所所長・教化研修部門講師 島菌進のそれぞれが発表され、こうした赤松師の足跡を行実や文学的業や近代宗教史の面から考察いたしました。

また午後2時半より、Earth 禅堂プロジェクトシンポジウム「環境問題に対する新しいアプローチの方途」～アースデイ東京におけるEarth 禅堂の試みから～が開催されました。これは毎年4月下旬に東京・代々木公園にて開催される「Earth Day Tokyo」において、環境問題に対する曹洞宗の啓発活動の一環として「Earth 禅堂プロジェクト」を立ち上げ、会場においてブース出展等を行いました。本シンポジウムでは、①「アースデイ東京の概要



釜田隆文 宗務総長



大谷哲夫 総合研究センター所長

と歴史」アースデイ東京2017 事務局長・理事 鈴木幸一 ②「Earth 禅堂の目指すもの」～開催にいたる経緯と目的 専任研究員宇野全智 ③ Earth 禅堂開催報告 委託研究員岡俊成のそれぞれが発表し、環境問題に関する社会全体の取り組みについて学ぶとともに、禅や曹洞宗の教えや実践が環境問題と関わる可能性について考察いたしま

した。なお、シンポジウムに並行するに形で個人発表が「蘭の間」「芙蓉の間」において行われました。

大会第二日は、午前十時より「桜の間」において、「宗教と法律」研究プロジェクトによるシンポジウム「人を裁く」事の意味を問う～一般社会と宗教の「善悪」観について～が開催されました。本シンポジウムでは、「宗教的視点から罪と罰や善と悪の再定義をし、人を裁くこと・赦すことについて、宗教者はシビアに考えるべきではないか」との問題提起を基に議論を深め、①「浄土真宗における悪人正機の倫理」浄土真宗本願寺派総合研究所副所長 藤丸智雄 ②「曹洞宗における宗教的倫理観・善悪観について」福井県霊泉寺住職 南直哉のそれぞれが発表されました。

リレー発表では教化研修部門研究部による「WEBを機軸とした布教モデルの提案」、曹洞宗の「教義」に関する研究プロジェクトによる「四大綱領と発願式」～曹洞宗の教義と教化について～がそれぞれ発表されました。

また、3会場に分かれての個人発表も前日に引き続き行われ、宗学や教学にまつわる分野では、道元禅師や瑩山禅師の思想の参究の発表が多く見られました。教化学的分野については、理論的構築を目指した発表が見られる一方で、寺院運営の実際に即した研究もありました。特に、現代社会における「禅」へのニーズを踏まえ、それに対応しうる教化手法・教化理論の提案が多かったと言えます。

2日間にわたる大会では、両日共に宗門内外からの、熱心な聴講者が見られ、盛会裡に幕を閉じました。なお、発表内容は、総合センター学術大会紀要並びに講演録としてまとめられますので併せてご参照ください。

なお、本学術大会はセンター在籍者のみならず、



梅花流詠歌研究プロジェクトシンポジウム
「赤松月船師と梅花流詠歌」



earth 禅堂プロジェクトシンポジウム
「環境問題に対する新しいアプローチの方途」



宗教と法律研究プロジェクトシンポジウム
「人を裁く」事の意味を問う
～一般社会と宗教の「善悪」観について～

宗門内外から広く発表者を募集しております。今後の宗門発展の礎となる意欲的な発表をお待ちしております。

学術大会開催報告

- プログラム -

〔第1日〕11月1日（水）

第1部会 <桜の間>

10時～14時

<シンポジウム>

梅花流詠讃歌研究プロジェクト

赤松月船師と梅花流詠讃歌

司会：専任研究員 関水博道

○赤松月船師仏教関係著作目録について

専任研究員 清野宏道

委託研究員 小嶋弘道

委託研究員 松井量孝

○曹洞宗近代布教における赤松月船師の意義

委託研究員 佐藤俊晃

○赤松月船師 ―その人と文学―

倉敷市立短期大学元教授 定金恒次

○近代宗教史のなかの梅花流詠讃歌

上智大学グリーンケア研究所所長・教化研修部門講師 島 蘭 進

14時30分～17時

<シンポジウム>

Earth 禅堂プロジェクト

環境問題に対する新しいアプローチの方向

～アースデイ東京におけるEarth 禅堂の試みから～

○アースデイ東京の概要と歴史

アースデイ東京2017 事務局局長・理事 鈴木幸一

○Earth 禅堂の目指すもの ～開催にいたる経緯と目的

専任研究員 宇野全智

○Earth 禅堂開催報告

委託研究員 長岡俊成

第2部会 <蘭の間>

個人発表（13時～14時20分）

1. 不遇死における教化法アンケート結果をもとに

専任研究員 久保田永俊

2. 住職の妻である寺族の教化活動のゆくえ

滋賀県青岸寺寺族 永島慧子

3. 曹洞宗の女性僧侶にかかわる制度の変遷について

女性と仏教・関東ネットワーク 瀬野美佐

4. 3法令同時改正（平成29年3月）の意味と仏教保育について

育英短期大学教授 佐藤達全

第3部会 <芙蓉の間>

個人発表（10時～15時20分）

1. 『正法眼蔵』における三界という語の用例

宗学研究部門研究員 新井一光

2. 『正法眼蔵』『山水経』巻における無理会話について
特別研究員 清藤久嗣

3. 太容梵清に関する諸資料について

宗学研究部門研究員 秋津秀彰

4. 正信論争考（十四）―木村泰賢博士と宇井伯壽博士

山口県 龍昌寺住職 竹林史博

5. 「小参」考

宗学研究部門研究員 角田隆真

6. 『正法清規』再考

教化研修部門講師 尾崎正善

7. 建綱と建擲の関係（十一）

岩手県正洞寺住職 熊谷忠興

8. 覚浪道盛『尊正規』再考―東阜心越が継承した世界

委託研究員 永井政之

9. 『法界次第初門』に見られる禅観

愛知学院大学講師 大松久規

10. 儒教と如浄禅師再考 ―『如浄語録』を中心に

駒澤大学非常勤講師 永井賢隆

11. 無門慧開の生涯と『無門関』

駒澤大学教授 佐藤秀孝

〔第2日〕11月2日（木）

第1部会 <桜の間>

10時～12時

<シンポジウム>

「宗教と法律」研究プロジェクト

「人を裁く」事の意味を問う

～一般社会と宗教の「善悪」観について～

司会：専任研究員 宮地清彦

○浄土真宗における悪人正機の倫理

浄土真宗本願寺派総合研究所副所長 藤丸智雄

○曹洞宗における宗教的倫理観・善悪観について

福井県霊泉寺住職 南 直哉

第2部会 <桜の間>

リレー発表（13時～14時）

教化研究部門研修部門研究部

WEBを機軸とした布教モデルの提案

1. S-Laboとは何か？

委託研究員 本多清寛

2. S-Laboの運用と問題点

教化研修部門研究生 中野孝海

個人発表（13時～16時）

1. 仏教イベントの考察 — 今後の寺院経営の柱とは教化
研修部門研修生 佐糺博史
2. 演劇的技法を用いた布教・教化の可能性 — 舞台『塩狩峠』を参考
教化研修部門研究生 中野孝海
3. 来馬塚道にみる布教教化観
教化研修部門研究生 松葉裕全
4. Amazon【お坊さん便】に登録してみた — 宗教儀礼は商品か？
SOTO 禅インターナショナル事務局 内山温子
5. 正法と法律 僧侶のポリシー — AIBO 供養とベッパ―
導師で考える
こちら OK 行政書士事務所 勝 桂子
6. 僧侶派遣サービスの現状と展望
日本出版サービス(株)代表取締役 尾山恒道

第2部会 <蘭の間>

個人発表（10時～14時20分）

1. 禅とマインドフルネスについて
教化研修部門研修生 江刺亮専
2. スピリチュアルの教化論 — 現代教化の視点から
専任研究員 関水博道
3. 海外における曹洞禅の将来を予測する
専任研究員 南原一貴
4. 初心者を対象とした坐禅指導プログラムの検討と実践
臨済宗妙心寺派平林寺僧堂教育研究室主任 亀 慈廣
5. 一般初心者に対する経行指導法の考察
副主任研究員 小杉瑞穂
6. 「フードドライブ」「子ども食堂」と曹洞宗の「食」の教え
教化研修部門研修生 伊藤正法
7. 立ち直り支援活動と「場」の力 - スリランカにおける事例から
専任研究員 宇野全智
8. 道元禅師と証真
専任研究員 清野宏道
9. 道元禅師成仏論の教化的展開について
委託研究員 菅原研州

リレー発表（14時20分～16時）

四大綱領と発願式～曹洞宗の教義と教化について～

1. 四大綱領の形成とその扱われかたについて
専任研究員 石原成明

2. 発願式アンケート結果への一考察

専任研究員 関水博道

3. 発願式アンケート結果に見える宗侶の教化意識について

委託研究員 金子宗元

4. 授戒会と発願式の位置づけについて

委託研究員 秋 央文

第3部会 <芙蓉の間>

個人発表（10時～16時）

1. 日泰寺仏舎利考 — 特に将来の背景について
専任研究員 古山健一
2. 曹洞宗における端午の受容
花園大学国際禅学研究所客員研究員 館 隆志
3. 「白山信仰」私見
新潟県長善寺住職 中山成二
4. 心海撰『宗極抄』と『宗鏡録』 — 中古天台に『宗鏡録』の援用
駒澤大学仏教経済研究所研究員 千葉 正
5. 石屋真梁開創伝説と双林寺の法問・十人老僧との関連について
元 群馬県立学校長 山本世紀
6. 唐の龍潭崇信禅師と日本の龍潭寺
愛知県龍潭寺住職 別府良孝
7. 施食会考
宗学研究部門研究員 澤城邦生
8. 宗暁『施食通覧』に筆録された禅僧について
教化研修部門講師 山本元隆
9. 瑩山禅師と浄土思想（三） — 「即非」をめぐる解釈の比較
専任研究員 宮地清彦
10. 『伝光録』古写本再考
駒澤大学大学院研究生 横山龍顯
11. 『伝光録』の定の解釈
駒澤大学大学院修了 下條 正
12. 『伝光録』に散見される「乃至」について
宗学研究部門研究員 加藤龍興
13. 『伝光録』における「空劫已前」について
専任研究員 小早川浩大
14. 瑩山禅師の頂相について
教化研修部門講師 伊藤良久
15. 『報恩録』に出る「身心脱落」「非思量」説について
駒澤大学総長 池田魯參